

### Ⅲ. 12の取り組み内容の進捗と今後の予定

- 01 ウォーカブル・ネットワーク、交通結節拠点としてのスマート・バスタの整備
- 02 待ち時間や移動時間を楽しめるモビリティの導入
- 03 ウォーカブル+ウェルネス環境の展開
- 04 パブリックスペースの可能性最大化
- 05 インタラクティブなストリートファニチャー
- 06 災害に強い中央通り
- 07 人流誘導による商店街活性化
- 08 スマート図書館
- 09 メタバース（デジタルツイン）
- 10 データプラットフォーム
- 11 3D都市モデル
- 12 スマート・インフラ

# 01 ウォーカブル・ネットワーク、 交通結節拠点としてのスマート・バスタの整備

## 取り組み概要 (実行計画より)

- 観光・賑わい創出の拠点
- 交通情報等の配信、乗り換え利便性の向上
- 脱炭素・レジリエント拠点
- バスバース、パブリックスペースの有効利活用



### 2022 (R4) 年度の検討状況

- バスタ検討部会等において、ターミナル施設形態や事業スキームの検討を具体化した。スマート・バスタの構築については、継続的に検討を行った。

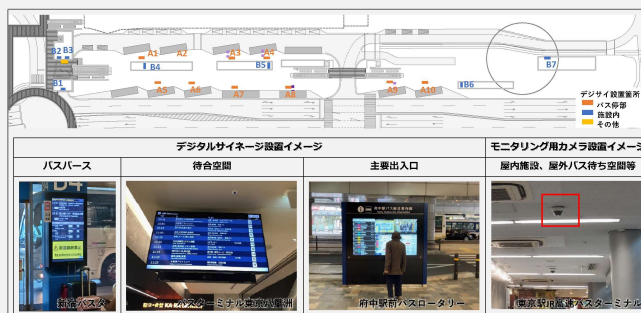
#### 2) バス停のデジタル化によるスマートバスタの構築（中長期）

- ◆ バス停のデジタル管理により、曜日や時間帯に応じて空きバースを、多目的車両の利用や荷捌きスペースとしてシェアリング



### 2023 (R5) 年度の検討状況

- ターミナル施設の機能に応じたデジタルサイネージの画面サイズや表示内容を検討した。
- バスターミナル施設内の利用状況のモニタリングに用いるカメラの設置イメージ等に係る検討を行った。



デジタルサイネージの配置箇所（案）（R5～R6年度）

### 2024 (R6) 年度の検討状況

- 管理運営事業者とともに、施設運用及びデジタルサイネージ表示内容等の調整検討に着手した。

### 2025 (R7) 年度の検討状況

- 交通事業者とターミナルの円滑な運用について調整を行った。

### 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- 利用者に配慮したターミナル運用計画の作成。

### 今後の予定

- 交通ターミナル整備工事の推進。



# 02 待ち時間や移動時間を楽しめるモビリティの導入

## 取り組み概要 (実行計画より)

- 多様なモビリティの導入
- マルチ・モビリティポートの設置
- 予約システムの構築（四日市版MaaS）



### 2022 (R4) 年度の検討状況

- 中央通りの道路空間を様々な用途に活用して見る賑わい創出社会実験にあわせて、来街者の回遊を促す交通手段の在り方を探る「まちなかモビリティ」の実証実験を実施した。
- 自動運転車両や小型カート、超小型電気自動車等による移動サービスの実証実験を行い、中央通り再編後の空間利用を共有した。

賑わい創出社会実験の様子



### 2023 (R5) 年度の検討状況

- 前年度の課題解決に向けて自動運転バスの実証実験を実施するとともに、モビリティポート（電動スクーター等）を設置し、試乗会を実施した。
- 「MaaS×まち歩き」をテーマとした四日市版MaaSの初期段階の体験として、デジタルスタンプラリーを実施した。

自動運転バスの実証実験 デジタルスタンプラリー画面



### 2024 (R6) 年度の検討状況

- 自動運転バスの技術・運行頻度に関する検証や、まちなかにおける移動手段（次世代モビリティ等）の提供を行う実証実験を実施した。
- 四日市版MaaSのプロトタイプ構築として、デジタルマップと交通情報（主要駐車場の満空情報、自動運転バス混雑度、三重交通バス位置情報等）を連携させ、デジタルポイントラリーの実施を通じ、参加者の移動履歴を検証した。



### 2025 (R7) 年度の検討状況

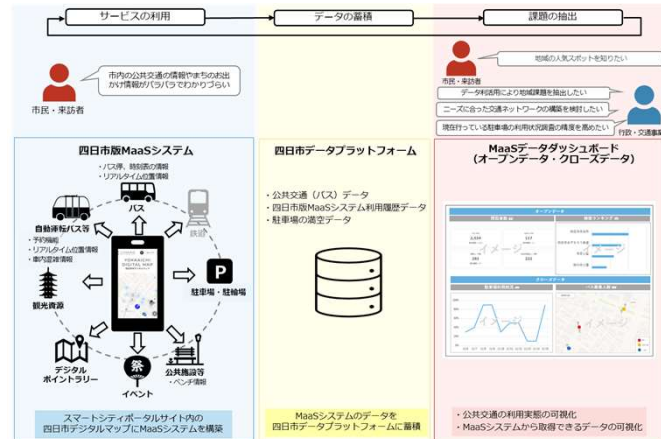
- 新しく供用を開始した中央通りの走行環境下で自動運転バスの実証実験を実施した。
- 駐車場の満空情報、観光情報、ベンチの場所などの情報を一元化することで、MaaSの機能を拡充した。
- データプラットフォームと連携したMaaSデータを分析・可視化するダッシュボードを構築した。

自動運転バスの実証実験（完成道路で走行）  
ダッシュボード（デジタルマップ利用履歴）



### 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- 市民や来訪者向けに、四日市デジタルマップにMaaSシステム（交通情報や施設情報を一元化）を構築。
- 蓄積されたMaaSデータを利活用できるダッシュボードの構築により、サービスの改善に向けたPDCAサイクルを回せる仕組みを整備。
- 自動運転バスやMaaSの実装は、中心市街地の回遊向上や賑わいの創出に寄与することが期待される。



四日市版MaaSの実装内容

### 今後の予定

- 継続運用が可能な公共交通情報を軸とした情報基盤の構築。
- 交通関連情報を四日市版MaaS上に一元的に集約し、日常的な移動の際に「移動時に参照される情報基盤」としての位置づけを確立。日常的・継続的に利用されるコンテンツの設計。
- 自動運転バスの定常運行に向けた取り組みの継続。

# 03 ウォーカブル+ウェルネス環境の展開

取り組み概要 (実行計画より)

- 四日市ウォーカブルマップの構築
- 快適なウォーカブル環境の展開



## 2022 (R4) 年度の検討状況

- R4年度賑わい創出社会実験で、屋外の混雑状況や環境などデータサーベイを実施した。

センサ設置によるデータサーベイの様子



## 2023 (R5) 年度の検討状況

- 近鉄四日市駅西側の先行整備区間において、歩行区間の再編等に合わせてスマート・インフラを導入した。
- 新設されたスマートポールにAIカメラ、環境センサーを設置し、取得データをデジタルマップ上で可視化する仕組みを構築した。

通行人数の可視化イメージ



デジタルマップのイメージ



## 2024 (R6) 年度の検討状況

- 2024年11月に中央通り沿いにデジタルサイネージを仮設置し、中心市街地の魅力発信コンテンツに加えて災害関連情報等を発信し、アンケート調査を通じて市民ユーザー等の反応を調査した。
- 2025年2月、市民公園にデジタルサイネージを本設置した。

デジタルサイネージによる中心市街地の魅力発信コンテンツ



## 2025 (R7) 年度の検討状況

- 過年度の取組を継続して実施した。

## 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- スマート・ポールに設置したAIカメラ、環境センサーを活用して、デジタルマップ上で通行人数や環境との関連性等を含むウォーカブルな環境の視覚化を実現。
- 市民公園に設置したデジタルサイネージにおいて、中心市街地の魅力発信コンテンツを展開。

歩行空間とスマート・ポール



デジタルマップのイメージ



## 今後の予定

- 中央通りの整備に伴い、スマート・インフラを継続的に整備。
- 中央通り及び商店街における快適なウォーカブル環境を展開。

# 04 パブリックスペースの可能性最大化

## 取り組み概要 (実行計画より)

- パブリックスペースの現況把握と可視化
- 場所の予約システム、デリバリーサービスの展開
- パブリックスペースのフレキシブルな活用



### 2022 (R4) 年度の検討状況

- R4年度賑わい創出社会実験で、スケボーパークの設置や仮設店舗の出店を行い、使われ方等に関する情報を収集した。また、デリバリーサービスについても未実施ながらシステムを構築した。

賑わい創出社会実験の様子



### 2023 (R5) 年度の検討状況

- 令和5年度スマートシティ実装化支援事業で、中央通り沿道で活用可能な公共空間や民間遊休不動産の基礎調査を行った。

空き空間調査の様子



### 2024 (R6) 年度の検討状況

- 沿道の歩行者空間や低未利用地・空き店舗などを官民連携で一体的に取り扱うサービスを検討。
- 沿道空間利用マネジメントシステムとして、利活用空間ウェブサイト（ベータ版）を開発した。



### 2025 (R7) 年度の検討状況

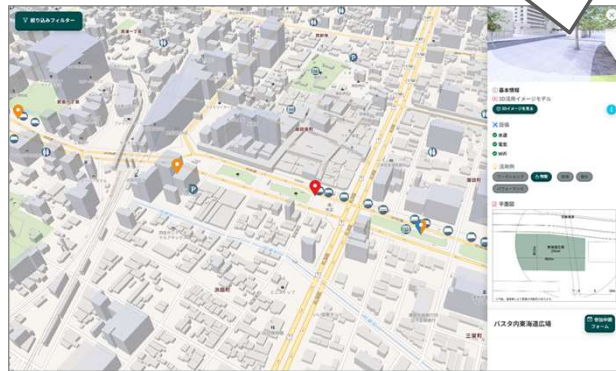
- 社会実験やシステム体験会を経て、ベータ版をブラッシュアップ、沿道空間利用マネジメントシステム（正規版）を構築した。

トップページと空間探しページのイメージ

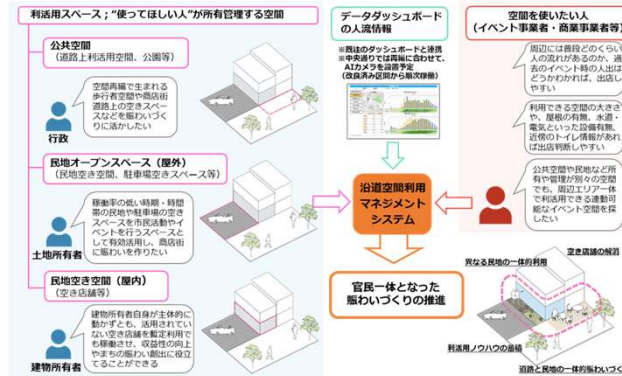


### 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- 利用可能空間と、空間を利用したい人々を繋ぐ沿道空間利用マネジメントシステム「シェアまちよっかいち」をリリース。



街なかの利用可能な空間の情報が3Dイメージとともに入手可能



R7年度末の実装のイメージ

### 今後の予定

- 中央通り沿道において、利用可能な空間を増加（バスタ等）。
- 沿道空間利用マネジメントシステムの継続的な運用。
- 公共だけでなく地域のまちづくり組織等も含めた官民連携により、自律的・持続的な仕組みの構築を指向。

# 05 インタラクティブな ストリートファニチャー

- 照明による演出
- 人の動きに反応するエンターテインメント要素の付加



## 2022 (R4) 年度の検討状況

- 街路灯照明に色や動きを追加したライティング技術について、専門メーカーを交えた導入可能性に関する意見交換を行い、現地におけるデモンストレーションなどを実施しながら検討を実施。



## 2023 (R5)、2024 (R6) 年度の検討状況

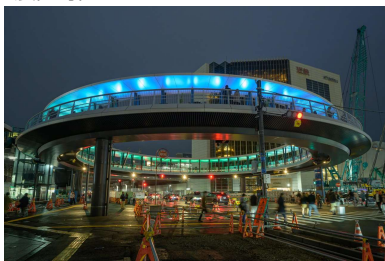
- スマート・インフラに設置したAIカメラや環境センサで取得したデータの可視化を行った。

## 2025 (R7) 年度の検討状況

- 円形デッキ（よんまるテラス）において、季節やイベントなど情報に合わせた色にライトアップできる装置を整備した。

## 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- 歩行空間でのインタラクティブな照明の導入は見送り、季節やイベントなど、情報に合わせた色にライトアップできる円形デッキを整備した。今後、市民のニーズに応じた照明の変更等についても展開可能。



## 今後の予定

- よんまるテラスにおいて、イベントなどに合わせたライトアップを継続。



# 06 災害に強い中央通り

- 取り組み概要**  
(実行計画より)
- 災害情報の配信、避難所への誘導
  - 中央通りにおけるローカルグリッド構築



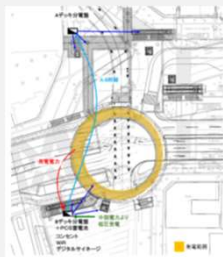
## 2022 (R4) 年度の検討状況

- ARを活用した防災学習用アプリ「AR Look (あるっく)」を導入。市全域におけるローカルグリッドの在り方やコンセプト等については必要性の観点から検討中。



## 2023 (R5) 年度の検討状況

- 災害時の電源としても期待される、太陽光発電システムの導入検討を実施した。



円形デッキへの太陽光発電、蓄電池導入の検討

## 2024 (R6) 年度の検討状況

- デジタルサイネージの災害情報連携実証を実施。
- 表示の見やすさや、災害時の情報提供の有用性を実証した。



デジタルサイネージにおける災害情報表示のパターン

## 2025 (R7) 年度の検討状況

- 災害時情報のオープン化と、公共及び民間所有のデジタルサイネージを用いた災害情報発信システムに係る実証を実施した。



災害情報伝達システム概念図

## 2025 (R7) 年度終了時点の成果

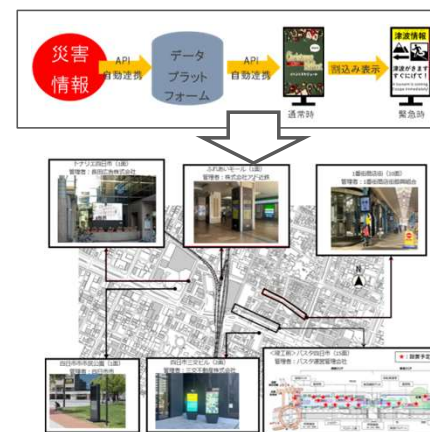
- ARを活用した防災学習用アプリ「AR Look (あるっく)」を導入。
- ローカルグリッドについては、検討したものの費用面から導入見送り、円形デッキに太陽光発電や蓄電池を整備。
- データプラットフォームを通じた災害時情報のオープン化およびデジタルサイネージを活用した適切な災害情報伝達システムを導入。



ARを活用した防災学習用アプリ「AR Look (あるっく)」



円形デッキに太陽光発電、蓄電池を整備



災害時情報のオープン化およびデジタルサイネージを活用した適切な災害情報伝達システムの導入  
※上記は今後連携を予定しているデジタルサイネージの場所

## 今後の予定

- R7年度時点での成果を継続的に運用。
- 災害情報伝達方法については、中心市街地における民間所有のデジタルサイネージも含めた展開を促進。

# 07 人流誘導による商店街活性化

## 取り組み概要 (実行計画より)

- 人流・混雑状況の可視化
- 人流の誘導
- 店舗側のマーケティング支援



### 2022 (R4) 年度の検討状況

- R4年度賑わい創出社会実験で、屋外の混雑状況や環境などのデータ収集と視覚化を含む社会実験を実施。



人流・環境データ等の視覚化

### 2023 (R5) 年度の検討状況

- 近鉄四日市駅西側の先行整備区間に新設されたスマートポールにAIカメラを設置。取得した人流データをスマートシティポータルサイト上で可視化する仕組みを構築した。
- 商店街側への人流の誘導に資する、沿道空間利用マネジメントシステムを検討した。



### 2024 (R6) 年度の検討状況

- 商店街関係者等との協議を経て、沿道空間利用マネジメントシステムとして、利活用空間ウェブサイトのベータ版を構築。空き店舗等の空間を使ってほしい人と、空間を使いたい人とのアンケートを行った。
- 収集されたデータを公園や商店街で有効活用するため、データプラットフォームワーキンググループにおいてワークショップを実施した。



利活用空間ウェブサイトのイメージ



● データプラットフォームWGのワークショップ

### 2025 (R7) 年度の検討状況

- 過年度の成果を受けて、商店街における実証を行い、そのアンケート結果等を踏まえて、利活用空間ウェブサイトをブラッシュアップ。
- 収集されたデータを中心市街地で有効活用するため、「公園DX」をテーマとして、データプラットフォームワーキンググループにおいてワークショップを実施した。



公園DXに係るワークショップ



### 2025 (R7) 年度終了時点の成果

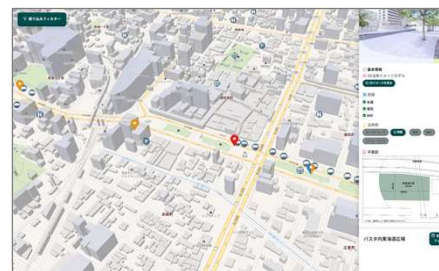
- 近鉄四日市駅西側の先行整備区間に新設されたスマートポールにAIカメラを設置。
- 取得した人流データをスマートシティポータルサイト上で可視化する仕組みを構築。
- ニワミチ JOYnt(じょいんと) Park Daysを開催、沿道空間利用マネジメントシステムを活用し、一部の商店街エリアにおける賑わいを創出。
- 沿道空間利用マネジメントシステムのウェブサイト「シェアまちよっかいち」を公開。
- 商店街におけるデータ活用について、データプラットフォームワーキンググループにおけるワークショップを開催。



歩行空間における人流の視覚化



社会実験を通じた賑わい形成



「シェアまちよっかいち」の公開

### 今後の予定

- 中央通りに加え、商店街における人流測定の試行。
- 商店街への人流誘導の仕組みの検討。
- 人流データの可視化、利活用空間ウェブサイトの継続的運営。

# 08 スマート図書館

- デジタル技術を活用した効率的な図書館運営について検討
- 図書館周辺や中央通りにおける電子書籍閲覧を検討



## 2022 (R4) 年度の検討状況

- スターアイランド跡地に整備予定の新図書館について、基本設計を検討。

## 2023 (R5) 年度の検討状況

- 令和5年10月より、よっかいち電子図書館のサービスを開始した。コンテンツ数約20700点は東海3県で最多の規模。

## 2024 (R6) 年度の検討状況

- ICタグを使用した自動貸出機・自動返却ポスト・セキュリティゲートを導入。ICタグの活用により、利便性向上、業務の効率化につながった。
- 令和5年度に導入した電子図書館については、令和6年度で約24,000コンテンツとなった。

## 2025 (R7) 年度の検討状況

- よっかいち電子図書館を運営

## 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- よっかいち電子図書館のサービスを開始。
- ICタグを使用した自動貸出機・自動返却ポスト・セキュリティゲートを導入。



## 今後の予定

- よっかいち電子図書館を継続的に運営。

# 09 メタバース (デジタルツイン)

- 様々なコミュニケーションツールとしての活用
- シティプロモーション
- 仮想空間と現実空間のハイブリッドによる市民生活の効率化や経済の活性化



## 2022 (R4) 年度の検討状況

- FIXER社がプロトタイプを構築し、R4年度賑わい創出社会にてデモンストレーションを実施。



## 2023 (R5) 年度の検討状況

- スマートシティ実装化支援事業の取り組みとして、FIXER社が構築したメタバースYOKKAICHIとテレビメディアを組み合わせた交流促進・情報発信の実証実験を実施。

テレビメディアと組合せた取り組みのイメージ

メタバースYOKKAICHI上での情報発信のイメージ



## 2024 (R6) 年度の検討状況

- 令和4～5年度のメタバースの実証実験を踏まえ、中央通りでの取り組みはメタバースに限ることなく他のツールの可能性についても広げていくこととし、令和6年度からは、スマートシティ実装化支援事業における「利活用空間活性化ツールの構築」「四日市版MaaSの構築」「バーチャル空間におけるコミュニケーション・ツールの構築」によりシティプロモーション、市民生活の効率化及び経済の活性化等に取り組んでおり、メタバースとしての取り組みの実施はなし。

## 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- 「メタバースYOKKAICHI」のプロトタイプを公開、デモンストレーションを実施。
- メタバースYOKKAICHIとテレビメディアを組み合わせた実証を行った。
- 中央通りについては3D都市モデルが構築されたこともあり、今後は、中央通りに限らず、不登校児童等を対象にメタバースの導入を進めていく。

## 今後の予定

- 中央通りに限らず、メタバースの可能性について検討を進める。

# 10 データプラットフォーム

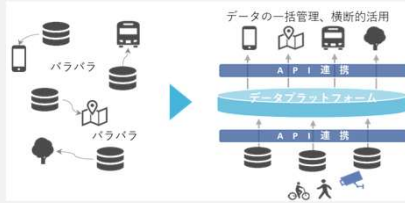
## 取り組み概要 (実行計画より)

- 公民学で連携して必要なデータを集約する
- 十分なセキュリティにより安全性を確保
- 新たなイノベーションの創出や、スマート化の取り組み全体の最適化



### 2022 (R4) 年度の検討状況

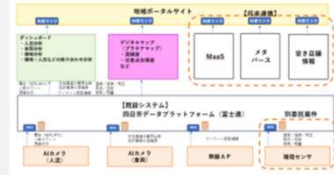
- スマート化に向けた様々なサービスを実現するため、公民学で連携して必要なデータを集約するためのデータプラットフォームの構築に着手。
- 2023 (令和5) 年3月から試験運用を開始。



データプラットフォームの仕組み

### 2023 (R5) 年度の検討状況

- 先行整備区間に設置されたスマート・インフラと連携し、データプラットフォーム上で人流データ、環境データの蓄積を開始。
- データプラットフォームを介した情報提供サービスの一つとして、ポータルサイト、ダッシュボード、デジタルマップを構築。



### 2024 (R6) 年度の検討状況

- 昨年度に引き続き、設置されたスマート・インフラと連携し、データプラットフォーム上で人流データ、環境データの蓄積、ポータルサイト、ダッシュボード、デジタルマップを運営。
- 四日市版MaaSの機能として、交通情報（主要駐車場の満空情報、自動運転バス位置及び混雑度、三重交通バス位置情報等）をデジタルマップと連携。
- オープンデータを活用し、中心市街地の課題を解決するアプリを開発する「四日市まちづくりハッカソン」を開催。



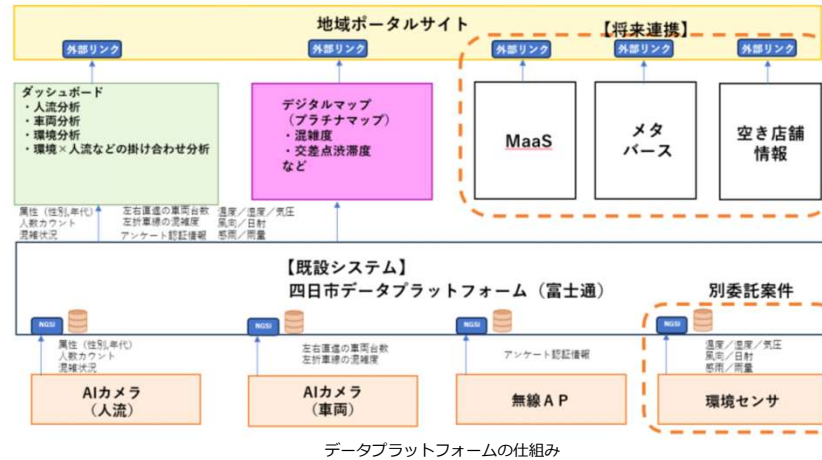
四日市版MaaSをデジタルマップと連携。 ハッカソンの概要

### 2025 (R7) 年度の検討状況

- 継続して、ポータルサイト、ダッシュボード、デジタルマップを運営。
- 利活用空間活性化ツールと連携。
- オープンデータ活用の検討の一環として、データプラットフォームWGでアイデアを検討。

### 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- 四日市データプラットフォームを中心として、データ収集～公開、活用に至るシステムが完成。



データプラットフォームの仕組み

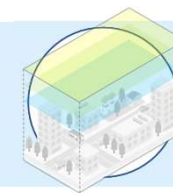
### 今後の予定

- 今後さらなるメニュー拡大を目指し、データプラットフォームの活用範囲を拡大。
- データプラットフォームのマネタイズの実践。
- 上記のためのマニュアル・ガイドラインの構築。 他

# 11 3D都市モデル

## 取り組み概要 (実行計画より)

- 3D都市モデルを構築し、オープンデータ化
- ユースケースを開発



### 2022 (R4) 年度の検討状況

- 国土交通省ProjectPLATEAUの補助事業を受け、3D都市モデルを整備。
- 災害リスク情報の可視化を実現。



### 2023 (R5) 年度の検討状況

- 3D都市モデルのユースケースの一つとして、中央通り再編後の姿を重畳。
- また、スマートシティ実装化支援事業の一環として、中央通りの地下埋設インフラの3Dデータ、属性情報を統合したデジタルインフラ台帳の構築に着手。

3D都市モデルで表現された中央通り再編後の姿



デジタルインフラ台帳のイメージ



### 2024 (R6) 年度の検討状況

- スマートシティ実装化支援事業の一環として、中央通りのデジタルインフラ台帳構築を推進。実際の運用時と同様に関係者（市および埋設事業者）のみがアクセスできる環境を構築し、デジタルインフラ台帳の有用性を確認。
- 埋蔵文化財の可視化を実現。

デジタルインフラ台帳の画面例 初期画面 (左)、断面表示 (右)



### 2025 (R7) 年度の検討状況

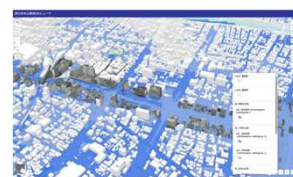
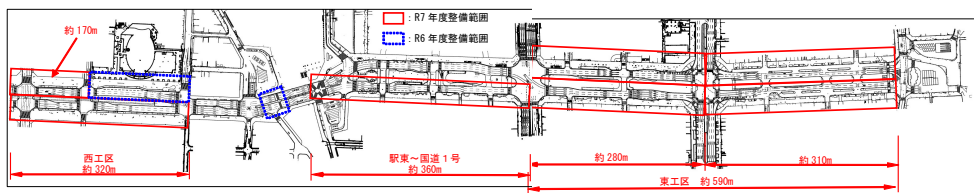
- 中央通りのデジタルインフラ台帳構築範囲を拡大。
- デジタルインフラ台帳の運用ルール等をまとめたガイドラインを作成。
- 沿道空間利用マネジメントシステム（正規版）において3D都市モデルとの連携を検討。

公共空間マッチングサービスとの連携



### 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- Project PLATEAUの一環として、市全域の3D都市モデルを整備。
- 中央通りのデジタルインフラ台帳を構築するとともに、運用ルール等をまとめたガイドラインを作成。
- 将来的な活用を見据えたユースケースの一つとして、現地で地下埋設物の状況を確認できるARソフトの実証実験を実施。
- 中央通り再編後の姿を重畳
- 災害リスク情報、埋蔵文化財の可視化
- 沿道空間利用マネジメントシステム（正規版）において3D都市モデルの活用を検討



災害リスク情報（津波浸水想定区域）



埋蔵文化財



デジタルインフラ台帳

### 今後の予定

- 3D都市モデルの継続的運用。
- ユースケースのさらなる展開。
- デジタルインフラ台帳については、市が主体となって運用していくとともに、中央通りのうち工事未了部分の工事が完了次第、その部分の台帳整備を継続していく。
- 沿道空間利用マネジメントシステムにおいて、3D都市モデルとの連携を検討。

# 12 スマート・インフラ

## 取り組み概要 (実行計画より)

- サービスを実現するために必要なデータを計測するために、センサなどの情報通信機器を整備



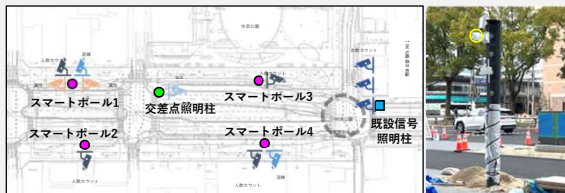
### 2022 (R4) 年度の検討状況

- 中央通り再編において、2023 (令和5) 年度から開始する近鉄四日市駅西側の先行整備区間の歩道部工事に合わせたスマート・インフラの整備に向けた検討を行った。

### 2023 (R5) 年度の検討状況

- 近鉄四日市駅西側の先行整備区間で工事が開始、スマートポールの整備などが順次開始。
- スマートポールにAIカメラ、環境センサー等のスマート・インフラの設置が進められ、人流情報 (歩行者交通量、混雑度等)、自動車交通量、環境情報 (気温、湿度等) の計測を行っており、過年度構築したデータプラットフォームへのデータ連携や、スマートシティポータルサイト上での取得情報の可視化が開始された。

センサが設置されたスマート・ポールなどの位置



### 2024 (R6) 年度の検討状況

- 中央通りの再編事業と合わせて、昨年度に引き続き、市民公園へスマートポール、デジタルサイネージなどを順次設置。



市民公園のデジタルサイネージ

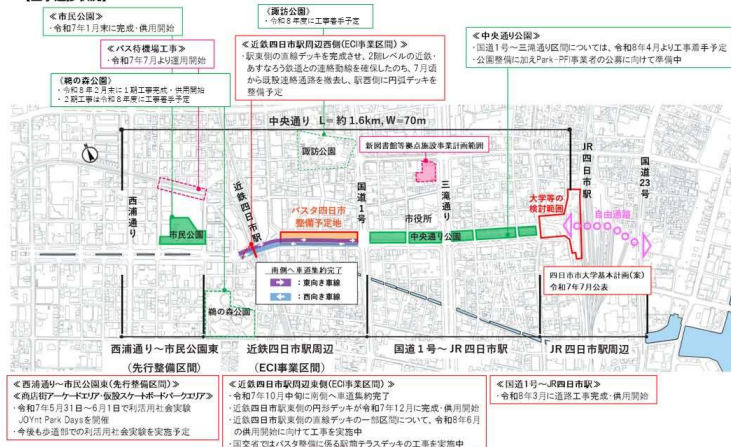
### 2025 (R7) 年度の検討状況

- 新たなスマート・インフラの整備は無し。

## 2025 (R7) 年度終了時点の成果

- 近鉄四日市駅西側の先行整備区間および市民公園においてスマートポール、デジタルサイネージを整備済。
- ポータルサイト上で取得データの可視化を実現。

### 【工事進捗状況】



今後の中央通りの整備予定

## 今後の予定

- 中央通りの他の区間における整備に合わせて、スマートポールを整備。全線におけるサービス構築を行う。

## IV. KPIの達成状況

目指す将来像	サービス設定	No.	取り組み内容	KPI	R3 (策定時値)						R8目標値	進捗率 (最新値/R8目標値)
					平日	R4	R5	R6	R7	R8目標値		
交通利便性が高く歩きたくなるまち (Walkable & Mobility)	サービス/ まちなか ウォーク ブル・ネット ワーク	1	ウォークブル・ネットワーク、交通結節拠点としてのスマート・バスタの整備	<b>中心市街地の歩行者流量</b> ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設定	平日	60,116人 (平成30年度)	52,090人	53,777人	52,793人	未	60,700人	86.97%
				休日	58,406人 (平成30年度)	50,021人	53,973人	59,250人	未	62,400人	94.95%	
		2	待ち時間や移動時間を楽しめるモビリティの導入	<b>路線バス利用者数</b> ※近鉄四日市駅前における三重交通バスと三岐鉄道バスの平日1日あたりの乗降者数の合計	7,979人/日 (平成30年度)	5,597人/日	6,085人/日	6,220人/日	未	8,000人/日	77.75%	
快適で安全に生活できるまち (Green & Energy)		3	ウォークブル+ウェルネス環境の展開	<b>中心市街地の歩行者流量</b> ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設定 ※国土交通省スマートシティ実装化支援事業のKPIより引用	平日	60,116人 (平成30年度)	52,090人	53,777人	52,793人	未	60,700人	86.97%
				休日	58,406人 (平成30年度)	50,021人	53,973人	59,250人	未	62,400人	94.95%	
健やかでかつ賑わいのあるまち (Festivity & Wellness)	サービス/ 使える・楽しめるパブリックスペース	4	パブリックスペースの可能性最大化	<b>新たに整備される中央通りのオープンスペースにおけるイベント開催件数</b>	0件/年	1件/年 <small>はじまりのいち(整備前の空間)</small>	1件/年 <small>中央通りリストリートサーキット(整備前の空間)</small>	1件/年 <small>ニワミチスポット(整備済み区間)</small>	1件/年 <small>ニワミチJOYntParkDays(整備済み区間)</small>	6件/年以上	16.67%	
		5	インタラクティブなストリートファニチャー	<b>中心市街地の歩行者流量</b> ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設定	平日	60,116人 (平成30年度)	52,090人	53,777人	52,793人	未	60,700人	86.97%
快適で安全に生活できるまち (Green & Energy)		6	災害に強い中央通り	KPIの設定は行わなかったものの、効果的な手法について検討を進めた。その手法のひとつとして、データプラットフォームを通じた災害時情報のオープン化およびデジタルサイネージを活用した適切な災害情報伝達方法については、国土交通省のスマートシティ実装化支援事業の令和6年度に行った災害時を想定した情報伝達実験において、被験者の行動観察等を個別にKPIに設定し、システムの有用性等の検証を行った。令和7年度末でシステムが実装化されることから、令和8年度以降に効果検証を進める。	休日	58,406人 (平成30年度)	50,021人	53,973人	59,250人	未	62,400人	94.95%
				7	人流誘導による商店街活性化	<b>商店街の空き店舗数</b> ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設定	12.1% (平成30年度)	10.70%	10.20%	9.90%	未	11.30%
健やかでかつ賑わいのあるまち (Festivity & Wellness)	サービス/ 交流・賑わいのバリューアップ	8	スマート図書館	<b>中心市街地の歩行者流量</b> ※四日市総合計画より本実行計画の目標年に合わせて設定	平日	60,116人 (平成30年度)	52,090人	53,777人	52,793人	未	60,700人	86.97%
		9	メタバース(デジタルツイン)	休日	58,406人 (平成30年度)	50,021人	53,973人	59,250人	未	62,400人	94.95%	
データ活用によるサービス提供、イノベーション創出(Accessible & Innovation)	ソフト・インフラ	10	データプラットフォーム	<b>データプラットフォームの閲覧数</b> ※デジタルマップの閲覧件数。R6年度から本格運用開始 * R7年度数値は令和8年3月18日現在の数値 ** R7年度数値/R8年度目標値	0件/年	—	—	40,927件	16,977件*	50,000件	33.95%**	
		11	3D都市モデル	<b>3D都市モデルを活用したユースケース件数</b>	0件	1件 <small>災害リスク(浸水)の可視化</small>	2件 <small>中央通り再編計画の重量</small>	3件 <small>埋蔵文化財の可視化</small>	4件 <small>デジタルインフラ台帳</small>	5件以上	80.00%	
	12	スマート・インフラ	—	—	—	—	—	—	—	—		

## V. 関係者一覧

<p>事業主体の名称</p>	<p>四日市スマートリージョン・コア推進協議会（実行計画の推進主体）</p>
<p>事業主体の構成員</p>	<p>地方公共団体代表 : 四日市市</p> <p>有識者 : 東京大学大学院 村山 顕人 名城大学理工学部 松本 幸正 早稲田大学大学院創造理工学研究科 有賀 隆</p> <p>幹事会員 : 近畿日本鉄道株式会社 三重交通株式会社 三岐鉄道株式会社 三重県タクシー協会/株式会社三交タクシー 学校法人みえ大橋学園 株式会社近鉄百貨店 四日市商工会議所 株式会社ディア四日市 近鉄グループホールディングス株式会社 近鉄不動産株式会社 株式会社シー・ティー・ワイ 株式会社三十三銀行 中部電力株式会社 国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所 三重県</p> <p>賛助会員 : 株式会社FIXER 株式会社マクニカ 株式会社VACAN 株式会社日建設計 FUTURE株式会社 富士通Japan株式会社 早稲田大学</p> <p>オブザーバー : 国土交通省 都市局 街路交通施設課</p> <p style="text-align: right;">（敬称略_順不同）</p>
<p>実行計画の期間等</p>	<p>令和4（2022）年度～令和8（2026）年度（予定）</p>

